

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570500490		
法人名	医療法人 竹内医院		
事業所名	グループホームのんた		
所在地	山口県周南市大字戸田2806-1		
自己評価作成日	平成29年1月5日	評価結果市町受理日	平成29年7月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/35/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/35/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年1月30日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

福祉と医療が一体となり認知症の方が、その人らしく、いきいきと暮らしていただけるよう取り組んでいます。また、経営母体が医療機関である事を活かし緊急時の対応やターミナルケアも段階に対応いたします。地域の方々や年中を通し行事などで交流を持つよう勤め、つながりを深め地域の中で生活を送っていただけるよう心がけています。日常の健康状態の管理から緊急時の対応について日常的に連携がとれております。入居者やご家族の希望があれば看取りまでを過ごされたホームの中で迎えられるよう取り組んで降ります。小学校や幼稚園が近くにあり、行事や散歩の時に交流があり世代交流が盛んです。家族会を立ち上げており年間行事の参加や家族会の行事なども企画しておりご家族同士の交流も盛んになっています。当グループホームは様々な実習生の受け入れも行ってあります。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自治会に加入され、地域の盆踊りや運動会、春と秋の八幡祭り、小学校の運動会など、地域の行事へ利用者が積極的に参加されています。事業所主催の花火大会に地域の子供たちが参加されたり、クリスマスイルミネーションの飾りつけやのんた祭りの準備では、地域から多くの住民が参加され、利用者や交流しておられます。童謡の会、健康体操、大正琴や三味線、オカリナの演奏、フラダンス、日舞、公文計算ドリル、男性コーラスなどボランティアの来訪も多く、小中学生の福祉体験の受け入れをされています。福祉体験に合わせた中学校での事前講義やサポーター養成講座を開催され、管理者は地区自治会防災組織の福祉施設部門顧問を受けられるなど、地域の認知症理解にも尽力されています。地域からは、花や野菜の差し入れがあり、のんた祭りや七夕のソーメン流し、門松づくり、餅つきなどの事業所行事には、地域の人や家族が多く参加され、日常的に交流されています。事業所の災害対策としての訓練には、地域の防災協力員の参加が得られ、緊急時連絡網にも加入しておられ、地域との協力体制を構築されています。利用者の好きなことやこれまでの生活歴や力を活かして、地域の人と梅ジュースやしそジュース、らっきょう漬けづくりを楽しまれるなど、生活の中で活躍できる場面づくりや行事への参加など、張合いや喜びのある日々が過ごせるように支援されています。利用者の好きなこと、趣味や昔の思い出、こだわりなど一人ひとりの思いや意向の把握をされて、利用者とのコミュニケーションを大切に個々の思いを把握されることで、食事に晩酌の機会を設けられるなど、個別の生活支援がされています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時より職員には理念の必要性和専門職としての自覚を促している。また、定期的に理念を振り返る機会を設け日々考えながらの実践を促している。	理念は事業所内に掲示している。職員は、日常業務の中で理念の意義について話し合っている他、カンファレンス時にも確認し、共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人が昔から地域とのつながりが深く、開設時より、地域の方々のご協力を頂いている。地域行事や、ホームでのイベント、週間予定などで利用者とのつながりが継続されるよう努めている。	自治会に加入し、管理者は地区自主防災組織の福祉施設顧問を受けて、事業所を含めた連携について話し合っている。地区の盆踊りや小学校の運動会、春と秋の八幡様の祭り、地区の運動会などに利用者と一緒に出かけ交流している。事業所が主催する花火大会には、子どもや地域の人が集まって楽しんでいる他、のんた祭りやクリスマスイルミネーションの飾り付け、七夕のそうめん流し、餅つきなどに、地域住民の協力がある。童謡の会、大正琴、オカリナ演奏、公文計算ドリル、フラダンス、日舞、男性コーラスなどのボランティアの来訪がある。小中学生の福祉体験の受け入れをしている他、中学生へ認知症サポーター養成講座を実施している。地域の人から花や野菜の差し入れがあるなど、日常的に交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアに入られている方々や災害時の協力員の方々、また運営推進会議の場などを通じ必要に応じて地域の方々へ認知症への理解を促している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価の及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価結果及び自己評価を事業所の現状とし、課題を抽出し、振り返る機会としている。	管理者は評価の意義について職員に説明している。前回の自己評価結果を基にカンファレンス時に職員と話し合い、管理者がまとめている。評価を活かして具体的な改善に取り組むまでには至っていない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員による自己評価の取り組み</li> <li>・評価を活かした取り組み</li> </ul>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて利用者を含むサービス提供の具体的な報告をするとともに推進介護のメンバーの方々からは様々な提案や意見を頂戴し、ケアの実践に取り入れている。	会議は2ヶ月に1回開催し、利用者の状況、職員状況、行事、活動報告、ヒヤリハット、事故報告、外部評価の結果などを報告し、話し合っている。地域のメンバーからは灯笼流しの行事についての提案があり、利用者が参加しているなど、そこでの意見をサービス向上にいかしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議への参加はもとおり、必要に応じて相談をさせて頂いたりホームや法人での取り組みをお話しさせて頂く機会は設けるよう取り組んでいる。	市担当者とは、運営推進会議の他、電話やメール、更新時や基準設備の解釈、事故報告などで窓口に出向いたり、市主催の会議や研修会で情報交換をしているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、利用者状況や感染症等の事例について相談して助言を得るなど、連携している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症ケアの実践において命の保護以外の身体拘束は援助者として不必要であることは周知させている。また、利用者が一人の人間としての人権を守るべく職員には日々現場での実践に取り組むよう促している。	職員は研修で身体拘束について学び、正しく理解している。玄関の施錠はしておらず、利用者が外に出たい時は、職員と一緒に出かけているなど、利用者が閉塞感を持たないように配慮し、行動の抑制や身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックなど、言動や行動が気になるときは、管理者が注意し、カンファレンスで勉強会を行い、確認している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に日常的に職員間で虐待等が無いよう取り組んでいる。事故報告書やヒヤリハットなど用いて日々のケアの中で気付いていない虐待がないかも見直している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	不定期ではあるが、法人内の学習会や、OFF-JTなどを用いて制度の必要性、職員としての専門性を高めるよう機会を設けるようにしている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時及び、法改正の際に丁寧に説明は行っている。また、互いに不利益等の無いように契約内容に関しては十分な説明を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理担当職員を定め、各ユニットに掲示を行っている。また、重要事項説明書にもホーム外の苦情申立機関を紹介している。苦情に対しては円滑な運営に繋がるように真摯に受け止め対応している。	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に利用者や家族に説明している。電話や面会時、年1回の家族会や事業所行事の参加時に家族からの意見や要望を聞いている。これまで、ケアに対する要望はあるが、運営に反映させるまでの意見や要望は出ていない。利用者は介護相談員に相談する機会がある。事業所だよりで事業所行事への参加案内をしているなど、意見が出やすいように工夫している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議の際や、職員個別で相談や提案に応じられるよう管理者や上層部は聴く機会を設けている。職員→管理者→上層部。	管理者は月1回の定例会議時に職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日常業務の中でも聞いている。職員から出た提案等は、管理者が法人の管理者会議時に報告している。職員からは、家族状況等によつての勤務体制の変更や職員体制の充実についての意見や要望があり、反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの現状報告や、相談する機会を設けたり、労働条件の見直しや職場環境の整備などに努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じた研修や企画を設けている。また職員からのケアの相談やスキルアップのための相談も聞き入れるように取り組み、人材の育成を行っている。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じ勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命研修をし、資料は閲覧できるようにし、職員間で共有している。今年度は「出会いから看取りまで」等に3名の職員が受講している。法人研修は「介護保険制度」、「リスクマネジメント、事故報告書」など年3回、開催している。内部研修は「認知症」、「利用者の思いの把握」などを2ヶ月に1回、実施するようになっているが、実施には至っていない。新人職員は法人研修受講後、先輩職員について働きながら学べるように支援している。	・計画的な内部研修の実施
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	周南市の近隣の事業所と共同で学習会を開催したり、外部からの実習生の受け入れや学習会や、職員の意識向上に繋がるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人意思を聞き取ると同時に適切なサービスが提供できるように情報収集を行いケアの現場に取り入れるようにしている。また、利用者話しやすい環境づくり、関係性に気を付けている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護保険制度の内容や契約内容、ホームでの心配事ほか、さまざまな心配事項は相談を受け入れ納得された上での円滑なサービス導入が出来るように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前の相談や契約時に本当にグループホームのケアが適切であるかを見極めると同時に必要であれば他のサービスを検討する事も視野に含めた対応をしている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添う心とつながりを大切にする事。援助を行う職員もまた、関わることで人間性や、専門職としての成長に繋がるように関わるよう促している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	GHに入居されて尚、より深くご家族と継続的にかかわりながら過ごせるように希望やつながりを実現できるように援助を行うようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時からセンター方式などのツールを用い、ご本人が生きてこられた過程を大切にするように支援を行っている。現状のニーズとの照らし合わせも行うようにしている。	家族の面会や孫、親戚の人、友人、知人の来訪がある他、顔馴染みのボランティアの来訪がある。自宅周辺のドライブ、馴染みの地域の盆踊り、八幡宮への初詣の支援をしている他、家族の協力を得ての外出や外食、外泊、馴染みの美容院の利用、墓参り、法事への参加など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者それぞれの関係性も把握し、職員が適切に間に入るなどの取り組みを行い、入居者同士の支え合いの場が保たれるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GHの周辺のご家族であればお会いした際に最近の様子など聴く機会もあるので場合によっては継続的に相談に乗れるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者も徐々にADLや認知度が低下していく事はしばしばである。困難な場面や状況が増えてきた際は利用者のそれまでの思いやご家族の思いが十分に反映されるように取り組んでいる。	センター方式の「24時間生活変化シート」を活用し、利用者の好きなこと、性格、趣味、昔の思い出、こだわりなど、一人ひとりの思いや意向を把握している他、日女の生活の中で把握した思いや言動は介護記録に記入し、職員間での情報共有に努めている。本人からの把握が困難な場合は、家族から聞き取り、利用者とのコミュニケーションを大切に個々の思いを把握して本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のツールや、過去のサービス関係者からの情報をご家族含め関係している方々から必要に応じて情報収集が出来るように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状に行き着くまでの利用者の性格や他者との付き合い方も考慮し、また、ADLや認知症状に合った状態を適切に把握できるように取り組んでいる。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定例会議で職員間で検討する機会を設けたり、利用者やご家族他関係者の意見も集約し、いま、その人らしくとはどういう状態かを考えながら検討を行っている。	利用者の思いや家族の意向、医師、看護師の意見を参考にして、系かつ作成担当者を中心にカンファレンスで話し合っ、介護計画を作成している。6か月毎にモニタリングを実施し、見直しをしている。介護計画は、職員全員が共有し、チームで対応し、利用者の状態に変化があるときにはその都度見直しをして、現状に走駆した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式のツールの活用やパーソン・センタード・ケアの考え方に注意しながら気づきに気づけるように職員間で意識を統一できるように取り組むようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員のケアの実践がGH内のみで完結するのではなく利用者やご家族のニーズに添えるように事業所も出来るだけ協力するようにしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	GHのケアだけではなくインフォーマルなサービスも視野に入れ取り組んでいる。公文、童謡の会、健康体操、地域活動への参加など。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医療にとどまらず、なじみのかかりつけ医の継続や専門医との協働を行いながら生活を提供できるように支援している。	本人や家族が希望する以前からのかかりつけ医の他、協力医療機関をかかりつけ医とし、協力医療機関からは月2回の訪問診療がある。それ以外は、家族の協力を得て受診の支援をしている。受診時には文章で医師に情報提供し、受診結果は面会時や電話で家族に伝えている。職員間では基本ファイルに保管して情報を共有している。薬の変更がある場合は、申し送りノートで共有している。夜間時や緊急時は協力医療機関や看護師と連携して適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GH内の看護師や法人の看護職員とも相談がしやすい関係性が構築されており、すぐに対応が出来る体制を整えている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご家族から現状の相談を受けると共に法人の医院からも入院先からの情報提供がもらえる関係性が出来ている。また職員も入院先へ訪ね、利用者の現状の把握に努め、医療と介護の協働が円滑に行われるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	GHでの日々の生活支援はもとより、ターミナルケアに向かっていく中での意向や、その他医療が必要になった際には状況に応じ都度都度対応していくようにしている。	契約時に「重度化への指針」に基づいて事業所のできる対応について家族に説明し、同意を得ている。実際に重度化した場合は家族の意向を聞き、主治医や看護師等で話し合い、看取りや医療機関、他施設への移設も含めて方針を決めて共有し、取り組んでいる。	
35	(15)	○事故病死の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	不慮の事故発生に備え定期的にAED訓練や救命救急法などの研修を行っている。まあ、リスクの高い利用者の事前把握やリスクに対するアセスメントをきちんととるようにしている。	事故発生時には、ヒヤリハット、事故報告書に記録し、その日勤務の職員で対応策を話し合い、申し送りノートで共有している他、毎月のカンファレンスで対応策や防止策について再検討し、介護計画に反映している。事故発生時に備えて、「異常時の発生対応マニュアル」に添って法人の看護師や事業所看護師(3人)から日常業務の中で指導を受けて、食対応や応急手当、感染症の対応など、実践力を身につけている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、消火訓練を実施すると共に地域の住民に協力を仰ぎ、実際に具体的に避難訓練までを行っている。職員に関しても共通の方法で実施できるように訓練を行っている。	年2回、消防署の協力を得て夜間想定の大規模火災時の避難訓練(誘導、通報、消火訓練)を実施している。訓練には地域の防災協力員が10人程度参加があり、避難方法や避難誘導、利用者の見守り等の役割をお願いしている。防災協力員は事業所の緊急連絡網に加入している他、管理者が地区自主防災組織の福祉施設部門に加入し、連携について話し合っているなど、地域との協力体制を構築している。風水害の対応マニュアルの作成や備蓄の準備もしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症ケアの本質の理解を促すとともにコミュニケーションを取る際の方法の指導を行っている。人生の先輩としての尊敬の念を持ちつつ優しい態度でケアの実践に繋げるよう指導している。	職員は、内部研修でプライバシー保護や個人情報保護について学び、利用者一人ひとりのプライバシーの保護や人格の尊重について正しく理解している。職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、人生の先輩として誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。気になる言動や対応については、管理者が注意している。個人情報の取り扱いに注意し、個人記録は適切に保管している。マニュアルも整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いの汲み上げと利用者それぞれの現状に合わせ、なるべくわかりやすい言葉や表現で関わるようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活習慣や体調に合わせ関わるようにしている。また職員の都合に合わせることに無いうように指導していく事が引き続き必要である。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者おひとりおひとりのその人らしさとは何かを考え、身だしなみについても継続できるようにケアに取り組んでいる。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	実情多くの利用者が食事の準備に関わっているわけではないが、出来ることの支援は大事に出来る利用者に関しては何かしらの場面で活躍の場を考え関わるようにしている。	食事は、昼食と夕食の副食を法人内施設からの配食で、朝食は事業所で調理している。地域から野菜などの差し入れがあり、調理に利用している。利用者は、野菜の下ごしらえや盛り付け、テーブル拭き、盆拭き、下膳、食器洗いなどを職員と一緒にしている。利用者の状態により食事形態を工夫し、食べやすいように配慮している。ソーメン流しやおせちなど、季節の行事に合わせた食事づくり、ホットケーキやパンケーキ、白玉団子、ぜんざいなどのおやつづくり、大みそかや敬老会には弁当をとったり、弁当を持参して花見を実施している。家族の協力を得て、年3～4回の外食や事業所として個別外食、利用者の好きな物を把握して、晩酌の機会を設ける等、食事を楽しむことのできる支援をしている。地域の人と一緒に梅ジュースやしそジュース、らっきょう漬けをつくっている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者それぞれの体調や習慣に合わせ適切なバランスで提供できるようにしている。また、一日の全体量も把握し、個別に必要なアプローチもやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口内残渣の確認や口腔内の異変などの把握が行えるよう利用者個別に対応方法を定めている。必要があれば協力歯科医院への相談も行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個別のパターンが把握できるように職員間の申し送りや排泄の方法、確認まできちんと実践できるように取り組んでいる。	生活リズムパターンシートを活用し、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握して声かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けて支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者それぞれが気を付けてきた習慣は大切にしている。また、個別の排泄方法や便秘予防の対策まで食生活や日常生活から繋げられるように取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者それぞれの入浴習慣や同性介護の提供など思いに合わせて楽しんでいただけるように取り組んでいる。	入浴は、毎日14時から17時までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせてゆっくりと入浴できるように支援している。利用者の状態に応じて清拭、足浴、シャワー浴の支援をしている。入浴したくない人には、一人ひとりのタイミングに合わせた声かけや時間の変更、職員の交代などでの支援をしている。柚子湯や入浴剤を使って、入浴が楽しめるように工夫している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	徐々にADLの状態も変化してくるので利用者ご本人に苦痛の無いように体調の把握に努めている。また夜間不安のある利用者に対しても共に過ごしたり、就寝前の心理面の不安の軽減に取り組み安心できるように取り組んでいる。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医や専門医と相談を行ったり、薬剤師から薬剤の説明を受けるようにしている。また、ご本人の経過も含め報告を行うようにしている。ご家族にも新たに出た薬など適時報告するようにし、情報を共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者ご本人が長年培ってこられた経験や趣味などの継続の必要性を職員にも理解を促し、その人らしさの継続支援が行えるように努めている。	利用者の好きな事やこれまでの生活歴や力を活かした役割として、エプロンの縫いなどの縫い物、花壇の世話、洗濯物干しや洗濯物たたみ、おやつづくり、梅ジュースやしそジュースづくり、らっきょう漬けづくり、角松づくり、ラントモ（認知症の支援マラソン）への参加、モップかけ、掃除機かけ、調理の手伝いや食事の時のテーブル拭き、下ごしらえ、下膳、食器洗いなど生活の中で活躍できる場面づくりをしている他、テレビ視聴、新聞や雑誌を読む、編み物、折り紙、歌、日舞、パズル、数並べ、公文、計算ドリル、俳句、書写、ハンドマッサージ、利用者個々の誕生日会などの楽しみごとや、八幡様のお神輿の立ち寄りや事業所主催の花火大会での子供たちとの交流、敬老会など季節の行事への参加など、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者によりけり、頻繁では無いものご家族と出かける機会や職員やご家族とともに出かける機会をつくれるように取り組んでいる。また、個別介助が必要な利用者に関しても必要に応じてご家族と協力し、実践できるようにしている。	周辺への散歩、自宅周辺へのドライブ、買物、桜やあじさい、コスモス、梅などの季節の花見、初詣、節分、地域の盆踊り、小学校の運動会、クリスマスツリー見学など季節の行事への参加、事業所として道の駅での外食、家族の協力での外出や外食、墓参り、法事への出席など本人の希望にそって、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持を希望される利用者に関してはご本人が管理している場合もある。また買い物や外出する際にご本人にお渡しするケースなどもあり、ご本人の認知の状態に合わせ対応している。出来る限りは触れる機会が持てるように取り組んでいる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話などは取り次いだり、ご本人の希望に応じ電話を掛けたりしている。制限は設けていないが掛ける先の方や手紙を送る先の方へ事前に了承は頂くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間については利用者にわかりやすい掲示物や刺激的な掲示物が無いように努めている。また季節折々の匂いや花などにも気を付け過ごしやすい空間づくりに配慮するようにしている。	共用空間には中庭側の窓から自然な光が差し込んで明るく、真向かいに見える温室で咲いている花などから季節を感じることができている。テーブルや椅子、ソファを利用者が使いやすいように配置している他、畳のコーナーがあり、一人ひとりがゆっくりと思いいいに過ごせるような居場所づくりをしている。温度、湿度、換気にも配慮して、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのスペースや廊下の集いの場所、温室など思い思いに過ごせるようにしている。また、利用者の所在の確認も行い、お一人ずつの過ごす様子の確認も行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安心できる生活環境の必要性をご家族にも理解を促し、入居時に必要な物品を用意してもらったり適時用意をお願いしている。入居前の生活がなるべく継続できるように努めている。	テレビ、衣装ケース、三段棚、観葉植物、ラジカセ、籐椅子、のれん、衣類、日用品、整理ダンス、鏡台、ポット、時計など使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、家族の写真やカレンダー、趣味の作品を飾り、利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内のリスクの多い場所や職員の目の届きにくい場所の把握を行い、リスクの少ないように整備をしている。また、利用者の認知状態に合わせて気付け、且つ自立した生活が出来るように分かりやすく工夫している。		

## 2. 目標達成計画

グループホーム のんた

作成日：平成 29年 7月 13日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	事業所内研修の開催はしているが、年間を通して計画的な開催ではない。	年間通して、テーマをもって取り組むことにより、職員の意識付けとスキルアップを図る。	年間スケジュールの作成、管理者の考えた研修のみでなく職員からの意見のくみ上げを行い実施していく。	1年間
2	3	事業所にボランティアなどに入ってもらってはいるが、ホームのほうから地域への貢献がまだ乏しく感じる。	地域のグループホームへのニーズや認知症の理解、啓発活動のニーズ、取り組みなどを行うことで地域により根ざしたホーム作りを行う。	地域の方々ボランティアに向けたホームの取り組み紹介やサポーター養成講座の開催。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。